

# 用語解説

## 自立への基礎

自立への基礎を養うことは、生活科の究極的な目標である。ここでいう自立とは以下の三つの自立を意味している。

### ① 学習上の自立

- ・ 価値あると感じられる学習活動を進んで行うことができる。
- ・ 自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できる。

### ② 生活上の自立

- ・ 基本的な生活習慣や生活技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然などと適切にかかわることができる。
- ・ 自らよりよい生活を創りだしていくことができる。

### ③ 精神的な自立

- ・ 自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつこと。
- ・ 現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくことができる。

## 安全への配慮

安全については、これまでは「自然災害」「交通災害」への対応を想定してきたが、これからは「人的災害」を加え、安全に十分気を付けた適切な行動や危険を回避する行動などができるように配慮したい。

## 継続した飼育・栽培

動植物の飼育・栽培は、どちらか一方を行うのではなく、2年間の見通しをもちながら両方を確実にやっていくということである。

また、継続的にとは、単発的な動植物との触れ合いではなく、日常的にかかわるということである。

動物の飼育については、児童のアレルギーや鳥インフルエンザ等への対応を含め、保護者や専門家との連携した取組に配慮する必要がある。

## 内容の階層性

新学習指導要領解説には、9つの各内容の階層性を図で示されている。これは、内容(9)「自分の成長」を上位概念として表しているわけではない。あくまでも、学習の対象、体験させておきたい活動、という分類による階層分けと、それら全てと関連のある階層という位置付けであり、単元を構想する場合には、各内容の構成要素とその階層性を意識して行うこととなる。